

NP O法人 Cotton Rings

自閉症余暇支援ビスケットが活躍



真心を込めて子どもと接する（左から）町田さんと吉野さん



を楽しみました。リーダーの吉野恵さん（人間福祉学科3年）は、「現在、心理学科2人、児童発達学科1人を含み、人間福祉学科の学生たち約50人が、この事業に参加しています。ボランティアサークルではなく、NP O法人ですから、ご家族からは

ふじみ野キャンパスには、地域連携センターBICSプログラムの一環で、綿祐二教授（人間学部人間福祉学科）が代表を務めるNP O法人 Cotton Rings（コットン・リングス）があり、地域の様々なニーズに対応しています。

子どもも学生も成長し、卒業後の行き方につなげることを目標に、平成22年度には、以前から活動してきた「肢体不自由児余暇支援きらきら」「自閉症余暇支援ビスケット」に、「知的障害児余暇支援事業」を加え、新たに「療育研究会」を発足させました。同研究会は、子どもたちとただ遊ぶものではなく、アセスメント・個別支援計画を行い、それを基に専門性を持って対応。子

どもの成長に合わせて、学内外での生活支援・余暇支援・生活介護を行い、療育評価をします。6月18日にはビスケットの活動があり、「子ども集会」「メッセージカード作り」「ランチ」「小体育館でのレクリエーション」「帰りの会」を実施。16人の自閉児が、メンバーの本学学生と共に月1回の活動

様々な決まり事に関する同意書をいただきます。その書類ひとつにしても、学生には社会勉強になります。また、実際にお母さん方のお話を聞けるので、色々な知識を蓄積できます」と穏やかに話しました。

町田千穂さん（同学科2年）は、「1年の始めのころは、子どもたちは私の目も見えてくれないので、このままやっつけていけるのだろうかと不安でした。でも、夏にかき氷を食べている子どもに『おいしい?』と声がけしたら、スプーンですくって私に食べさせようとしてくれたので、『認められた!』と涙が出るほどうれしかったです。私たちが子どもと過ごしている間に、ご家族にはゆっくりと心身を休めていただきたいです」と優しい笑顔。

将来、吉野さんは「施設で子どもたちと関わる仕事をしたい」、町田さんは「病院で、病気や障害のある子どもたちの医療保育に携わりたい」という夢を持っています。「この活動を通じて経験を積み、夢に向けて努力します!」と、輝く目で話してくれました。